



# UTO から世界へ！ 第15号

## 創立記念講演会を実施

日時:7月12日(金)

講師:上野 結羅 氏 (2016年卒)

演題:「私の心と直感に従う～点と点を繋げる生き方～」



本校生へのメッセージ

上野さんは宇土高校を卒業された後、国際基督教大学で開発学、教育学、データサイエンスを学ばれました。在学中はインド、イギリス、アメリカ、スウェーデン、フィンランド等、世界各地でも学ばれました。卒業後は、データアナリストとして2年間勤務された後、更に専門性を高めるためにスウェーデンのヨーテボリ大学院にてデータサイエンスを専攻されました。現在は Johnson&Johnson にてデータサイエンティストとしてご勤務されています。

大学院の卒業式



やりたいことを見失って悩んだり、方向転換したことによる困難は大きかったけれど、自分が本当に好きなことにたどり着くためには必要なことでした。周りの人や社会の波にのまれないで、自分の心と直観に従って、本当に好きなこと、やりたいことを追求し続けてください。

## 本校英語科 橋本先生が語る上野さん



誠実で礼儀正しい、まさに模範的な高校生でした。模範の域を超えていたのは学習に対するしつこさ。間違えたことを素直に悔しがり、二度と同じ間違いをしないぞという勉強に対する気持ちの強さを感じました。高2で英検準1級を取得されています。

## 高校の頃は…

上野さんは自分のお弁当や家族の夕飯も作っていたと聞いています。中学時代は、吹奏楽部で休日も出てきて練習をしていたし、読書感想文で表彰されたり、文部科学省の KAKEHASHI プロジェクトでアメリカに派遣されたりと、とにかくバイタリテイに溢れて、「やりたい」と思ったことを躊躇するのではなく、まずやってみるという姿勢の人でした。

講演を拝聴しながら思ったこと…ステキな先輩ですね！

「マララ・ユスフザイという『一つの点』と『データサイエンス』というもう一つの点を線でつなぐとすれば、その線にどんな名前を付けますか」と聞いてみたかったです。自分の直感に従って生きながら今振り返ってみて、この二つの点がどのように繋がっていたのだろうと、彼女の成長を見届けながら思ったことです。彼女がフロアに降りてある2年生に質問しました。「データサイエンスって何？」その生徒は答えました。「ウェルビーイング。」不遇の環境の中で、人としての当たり前の権利を追い求めるマララさんと、社会における不平や不合理を数字に見える形で表そうとするデータサイエンスという一見何の関係もなさそうな二つの点をつなぎ合わせるものは「よりよく生きること＝幸福＝ウェルビーイング」というまっすぐな線だったと上野さんのお話から教えていただきました。

直観は意外と正しい。難しいのは、直観に従うこと、だと私は思います。

